



Point

## 斑点米カメムシ類の多発に注意!



秋田地区営農センター 主任 佐藤 怜太

斑点米カメムシ類の発生量は、平年よりも多い予報となっています。  
特に発生量が多い山間部や耕作放棄地と隣接している圃場、また、圃場内にノビエやホタルイの残草がある場合は被害のリスクが高まりますので、適期防除、管理の徹底をお願いいたします。

### 出穂期からのカメムシ防除適期

**カメムシ防除適期…出穂期(圃場全体の40~50%出穂)後1週間から10日後を目安に散布**

#### カメムシ1回目防除

…スタークル剤

※散布後1週間以内に畦畔の草刈りを実施してください。

#### カメムシ2回目防除

…キラップ剤

※1回目を散布してから2週間後が散布の目安となります。

薬剤名	規格	希釈倍数	散布量・散布液量	価格(税込)
スタークル粉DL	3kg	—	3kg/10a	1,529円
スタークル液剤10	500ml	1,000倍	100ℓ/10a	2,794円
キラップ粉DL	3kg	—	3kg/10a	1,419円
キラップFL	500ml	2,000倍	100ℓ/10a	5,016円

### 今後の管理

- カメムシは畦畔や水田内の雑草に寄生し、出穂後に糞を吸引して被害を与えます。特に「あきたこまち」は糞が割れやすい品種なので**必ず2回の散布をお願いします。**  
1回目の防除後は、1週間以内に畦畔の草刈りを実施してください。
- 出穂後20日間は玄米形成に最も重要な時期です。2湛2落(間断かん水)を基本としながら、常に飽水状態の維持を念頭に、収穫時まで根の活力維持に努めましょう。  
出穂期以降に高温が続く場合は、胴割粒、乳心白粒による品質低下が懸念されます。収穫期まで気を抜かず、天候に即した水管理で品質向上に努めましょう。
- 秋田中央地域は海洋性の気候により、日中と夜間の気温差が小さい地域です。高温時は各地区の給水規則を守り夜間かん水を徹底し、日中と夜間の温度較差をつけて登熟を高めましょう。
- 高温、強風時(フェーン現象)には、稲体の消耗が大きくなるので、事前に湛水し稲体を保護しましょう。
- 完全落水の時期は概ね出穂30日後とします。早期の落水は葉色の低下(枯れ上がりの早まり)、根の機能減退により登熟が妨げられ、収量や品質に影響を及ぼしますので気を付けましょう。

